

きょうじゅん こうせん 恭順から抗戦へ 「軍議1日目」

右の図は、5月22日(今の暦で7月11日)の軍議に集まった藩を表したものです。当時は、家紋場所は、加茂町の大庄屋の屋敷(市川邸:今の第四銀行周辺)です。全体指揮をする藩は、奥羽越列藩同盟の越後のまとめ役をする米沢藩であるはずでした。しかし、だれがリーダーになるかで「会議」は最初からもめました。その様子を、実況放送風にみていきましょう。それぞれの藩の「知恵」が絡み合う姿をみていきましょう。



米沢藩: 全軍の指揮をするのだけは、ごかんべんください。

会津藩: あなたが、越後の藩を助けないというなら、あなたの藩のご先祖である上杉謙信さまは何といわれるでしょう？

長岡藩: わが長岡藩は7万石ほどの小さい藩ですが、義の心を忘れたことはありません。わが藩は開戦に踏み切ったのですが、村松藩の裏切りで、あえなく長岡城は落城しました。

村松藩: 河井継之助どの、裏切りなどではありません。ここにきているのが証拠です。

長岡藩: ここは団結して、長岡城を取り戻す作戦を考えてはどうでしょう。

米沢藩: 長岡藩の河井継之助どの、村松藩の気持ちもわかって、ここはいっしょに戦おうではないか。

桑名藩: わが桑名城も落城している。わたしたちも、自分の城を取り戻す決意です。ここは、長岡城を取り戻そうではないか。

会津藩: 今日の会議で、奥羽越列藩同盟の義の心を確かめることになった。そして、今日決まったことは、長岡城を取り戻すことだ。

河井継之助が言った「村松藩の裏切り」とは事実ではない。この発言で、軍議は長岡城を取り戻すという【抗戦】に変わる。

歴史年表

※当時の暦(旧暦)で示す
1600 江戸幕府始まる

- 1867.10.14 大政奉還
- 1867.12.9 王政復古
- 1868.1.3 鳥羽伏見の戦い
- 1868.3.11 江戸城明け渡し



- 1868.5.19 長岡城明け渡し
- 1868.5.22 加茂軍議 一日目

1868.5.24 長岡城の戦い



- 城を取り戻す
- 1868.5.27 長岡城明け渡し

1868.8.23-9.22 会津の戦い



1869.5月 五稜郭の戦い



長岡城を取り戻せ 「軍議 2 日目」

右の図は、5月23日(今の暦で7月12日)の軍議に集まった藩です。1日より参加者は少なくなっています。前半は、だれが指揮をするのか、そして、村松藩への非難で、時間が流れていきます。

しかし、次第に長岡藩の河井継之助が会の流れを作っていきます。長岡城を取り戻すための具体的な作戦を示していきます。

ふたたび、藩の「知恵」が絡み合う姿をみていきましょう。



歴史年表

※当時の暦(旧暦)で示す
1600 江戸幕府始まる

1867.10.14 大政奉還
1867.12.9 王政復古
1868.1.3 鳥羽伏見の戦い
1868.3.11 江戸城明け渡し

1868.5.19 長岡城明け渡し
1868.5.23 加茂軍議 二日目

1868.5.24 長岡城の戦い

城を取り戻す
1868.5.27 長岡城明け渡し

1868.8.23-9.22 会津の戦い

1869.5月 五稜郭の戦い

会津藩：指揮は米沢藩にお願いしたい。
 米沢藩：まだ、藩の責任者が加茂に来ていません。それから相談をお願いしたい。
 長岡藩：昨日昨日もいったが、わが長岡城は、村松藩の裏切りによって落城したのです。村松藩は、このことをどう考える。
 村松藩：河井継之助どの、昨日もいったが、だんじて裏切りなどではありません。ここにきているのが証拠です。
 (長岡城を取り戻して、どれほどの利益があるのだろうか？ 疑問に感じ、黙っている人も多数いた。)
 長岡藩：敵(新政府軍)もまさか、われわれが加茂にまっけているとは知らない。ここは、一気に長岡に攻め込んでどうか。
 会津藩：一日目の軍議で、河井継之助どのの会津藩への義を感じた。それにこたえるためにも、長岡城を取り戻すことに全力をつくそうではありませんか。
 桑名藩：加茂は桑名藩の預地です。ここを中心に、一気に攻撃をかけましょう。
 長岡藩：長岡城を失った今、加茂は越後の中心です。ここを足がかりに、知恵を使い敵が思いつかない作戦をすれば勝てる。
 米沢藩：わが藩は藩をあげて、長岡城を取り戻すことに協力します。

この後、長岡藩が、作戦内容と各藩の役割分担を決める。そして、次の日(5月24日)、軍は加茂をたち長岡に向かう。